

第5章 総合評価

事業実施想定区域に風力発電機を設置することによる周辺環境に与える影響を検討した結果、事業計画での配置計画や工事工程等で環境配慮を行うことで、重大な環境影響は回避、低減されるものと評価された。

環境要素ごとの環境影響が懸念される内容と、事業計画での環境配慮の概要を表 5-1 に示す。

表 5-1 環境影響が懸念される内容と環境配慮の概要

環境要素		環境影響が懸念される内容	環境配慮の概要	評価結果
騒音		事業実施想定区域から2.0km以内に住居等が706戸、環境保全配慮施設が4施設分布しており、生活環境に影響を及ぼす可能性がある。	騒音を低減するため、住居等との位置関係に留意し、風力発電機の配置計画等の検討を進める。	重大な環境影響は回避、低減されるものと評価する。
風車の影		事業実施想定区域周辺には、1.82km範囲内に住居等が701戸、環境保全配慮施設が4施設分布しており、生活環境に影響を及ぼす可能性がある。	風車の影による影響を低減するため、住居等との位置関係に留意し、風力発電機の配置計画等の検討を進める。	
動物	哺乳類	重要な種(ヤマコウモリ、ニホンザル、ホンドモモンガ、ムササビ、ヤマネ等8種)の生息環境(山地、森林等)の一部が改変される。	土地の改変、樹木の伐採、溪流の改変を必要最小限となるように、風力発電機の配置計画等の検討を進める。 また、重要な哺乳類のうちヤマコウモリ、ヒメヒナコウモリ、コテングコウモリの3種及び重要な鳥類36種についてはブレード、タワーへの接近・接触等の影響に留意し、風力発電機の配置計画等の検討を進める。	
	両生類	重要な種(クロサンショウウオ、ツチガエルの2種)の生息環境の一部が改変される。		
	昆虫類	重要な種(ウスバカマキリ、ミヤマチャバネセセリ等17種)の生息環境の一部が改変される。		
	魚類	重要な種(キタスナヤツメ、ドジョウ等15種)の生息環境は直接的な改変の可能性はない。		
	底生動物	重要な種(カワネジガイ、カワシンジュガイ、ヤマトシジミ等10種)の生息環境は直接的な改変の可能性はない。		
	鳥類	重要な種(ヤマドリ、アオバト等36種)の生息環境の一部が改変される。また、ブレード、タワーへの接近・接触等の影響が生じる可能性がある。		
		事業実施想定区域内に重要な種(ヒシクイ、マガン等39種)の主な生息環境は存在していないが、十三湖及びその周辺に飛来(中継地)していることから、ブレード、タワーへの接近・接触等の影響が生じる可能性がある。		
植物		既存文献では詳細な生育場所が不明であるが、重要な種(クロミノコジマエンレイソウ、サルメンエビネ等18種)の生育環境の一部が改変される可能性がある。	土地の改変、樹木の伐採を必要最小限するように、風力発電機の配置計画等の検討を進める。	
生態系		事業実施想定区域の74%を占める重要な自然環境のまほとまりの場が、一部改変される。	可能な限り重要な自然環境のまほとまりの場の改変を必要最小限とするように努め、風力発電機の配置計画等の検討を進める。	
景観		事業実施想定区域から1.1～3.1kmの距離にある眺望点3箇所、垂直見込み角度が3度を超え、景観に影響が生じる可能性がある。 また4.5～8.3kmの距離にある眺望点9箇所、垂直見込み角度が1.5～2.7度となり、天候条件等によっては景観的に気になる可能性がある。	可視状況(地形・樹林等による遮蔽)を踏まえて影響の度合いを把握し、主要な眺望点との位置関係に留意しながら、風力発電機の配置・基数等の検討を進める。あわせて、塗装色は灰白色とし、周辺景観との調和に配慮する。	
人と自然との触れ合いの活動の場		主要な人と自然との触れ合いの活動の場は事業実施想定区域内に存在せず、直接的な改変の可能性はないものと評価する。	人と自然との触れ合いの活動の場の利用状況を踏まえ、風力発電機の配置計画等の検討を進める。	